

浦和東部地区元気アップネットワーク

第3回 みんなの学校づくりプロジェクト

日時 4月22日（土） 10時～12時頃

場所 浦和スポーツクラブ

1. 開会・あいさつ
2. 自己紹介 . . . 必要に応じて
3. 第2回までのおさらい
4. 意見交換

みんなの学校について

誰が、何を、何のために、何時、何処で

5. 次回の予定
6. 閉会

配布資料

次第

資料—1 第2回の記録

過去の資料は。。。

ホームページ <https://genkiupnw.webu.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/genkiup.urawaeast/>



Facebook



ホームページ

第2回「みんなの学校」設立準備会

日時：2017年3月18日（土） 10時～12時

場所：おたっしや倶楽部

参加：高橋、山田、西澤、野辺、深水、井上、石井、
上岡、磯、金子、山崎、久保田、小野崎

1. 開会
2. あいさつ
3. 自己紹介
4. 事例研究

（1）米国のコミュニティカレッジについて／山田さんによる紹介

- ・ テキサス州ダラスに4年いた時に夫婦で参加した。
- ・ 日本の総合大学とは異なり、コミュニティに力点がある、地域密着がポイント。ターゲットは地域住民。
- ・ 入学試験がない。誰でもは入れる、就労ビザでもは入れる。
- ・ 学費が安い。1月2000～3000円程度ですむ
- ・ 一般教養系は定められた単位をとると、他の4年制の大学に編入できる
- ・ 職業訓練コースもある
- ・ 運営主体は、自治体。ダラスだけで7つくらいあった。さいたま市でいうと区に1つあるようなイメージ。
- ・ 卒業はない。授業にテストはある。単位ごとに修了証書がもらえる。
- ・ 日本の大学で社会人コースのようなものをつくっているところがあるが、それとは異なり、専用の校舎があり、これだけで運営されている。
- ・ 移民が多い国だから、教育レベルを上げるためにもこういう仕組みが必要とされたのではないかと思う。
- ・ 先生も専任ではないボランティアの方も多かったように思う
- ・ 企業の寄付もたくさんあったようだ
- ・ 受講生は、社会人、働いている人が半分。20～30代。シニアは少ない。シニアの方は、教会で趣味の活動をしている

（2）コミュニティキャンパス浦和について／磯さん

- ・ 13年前に活動を開始した
- ・ 浦和区内の公民館で活動している主だった方々が集まった
- ・ 生涯学習塾をつくろうと、浦和区のコミュニティ課からの声かけもあって始めた
- ・ 岸町公民館を中心拠点とした
- ・ 部会をいくつかおいて、各部会の部長さんが中心に講座をつくっていく
- ・ 10月開講。区の補助金で活動している。
- ・ 予算執行が夏からになるので、夏から募集して秋から春まで半年間。
- ・ 当初はチラシも手作り、輪転機をまわしていた

- ・ 業者にお願いすると10万くらいかかるので無理。今は自分たちでつくっている
- ・ 5万円くらいで1500部入学案内を刷っている
- ・ 講師を選ぶこと、謝金をどうするかが課題となった。悩んだ末に公民館と同じ謝金でやることにした。1回1万円にした。
- ・ 大学の著名な先生がくるともう少し上積みしている。
- ・ オンブズマンからは少し高いのではないかと意見をもらっている。
- ・ 講座は10月から開講しますが、それまでの半年の休講期間は準備で忙しい。
- ・ 毎年、けっこう大変で、2～4月頃に講師の交渉をしている。講師の手配、確保が大変
- ・ さいたま市のシニアユニバーシティにも関わっていて、老人大学がもとだった。
- ・ シニアユニバーシティは市内に6校ある。
- ・ 受講費は年間数千円。
- ・ クラブ活動でコミュニケーションをとって仲良くなって、その後も活発に活動している方々がいる。
- ・ 開講当初は参加者がたくさんいたが、周りの公民館でもいろいろなプログラムが始まったので、少しマンネリ化もみられる。
- ・ 補助金は年50～80万円を受けている。
- ・ スタッフは部門長が8人、スタッフは全部で30人くらいになるが、14年目になると、スタッフが高齢化してくる
- ・ お宝探検隊などは、移転されてきた方に関心が高く、定員がいっぱいになる。
- ・ 一報、高齢者福祉の話題などは人気が低い。
- ・ 親子で遊ぼうなどは土日にやっているが、これは人気がある。クリスマスケーキを自分でつくろうとかとても人気がある。
- ・ 多くの講座が平日にしているので、若い方はこられない
- ・ 受講料はまちまち2,000円～5,000円くらい。
- ・ あまり低くして民間を圧迫しないようにという意見はある
- ・ 場所は、岸町公民館が中心だが、少し不便という意見はあるが、もともと浦和区のできるだけ中心でということになる
- ・ 毎年補助金が出てるのは、珍しい例だと思うが設立経緯があるためだと思う。
- ・ 毎年の収入分を少し貯めて、自己財源をつくっている。
- ・ 講座の内容については、分野のベースは一緒だが、毎年見直している
- ・ 同じ方が受けることもあるので、見直さないとマンネリ化する
- ・ よく続いていると思うが、区のバックアップも大きいと思う
- ・ 受講生の入れ替わる割合は三分の二くらい。
- ・ 受講生同士は、ランチ会など交流の機会を持っている
- ・ 卒業生にメールで案内をしている
- ・ 事務局は岸町公民館内にある
- ・ スタート時には、各方面にヒアリングなどを行っている
- ・ 始まりのきっかけは、区民会議のアイデアをコミュニティ課が受けた
- ・ 受講生の年代は、50代から上が多い

(3) みんなの学校について

- ・ コンセプトを明確にするのが良い。そうでないと、わかりづらくなってしまう
- ・ 講師謝金はボランティアといってもある程度は必要ではないか
- ・ 民間企業がやるくらいの感覚で考え始めたほうがよい
- ・ ターゲットをしっかりとする必要があるが、どういうニーズにあててるのかを調べないといけない。市場調査である。
- ・ 目的、ターゲット、ニーズを考えよう
- ・ 単発か継続かも考える
- ・ 地域で何を求めているかを考える、調べるのも大事
- ・ オレンジカフェ円蔵寺（東岸町）のような活動もある
- ・ 潜在需要の掘り起こしも必要だろう
- ・ 受講して終わって、さようならにならないようにしないといけない
- ・ 年齢層を絞ることも大事ではないか
- ・ 元気アップに参加している人も、徐々に増えてきた
- ・ アンケートをとってもいいのではないか
- ・ ヒントはいままでの議論、ワークショップで出されている
- ・ シブヤ大学には企業からの出資が多く、街なかのあちこちを舞台にしている。こういったことも参考にして、商店街とかも一緒に参加したり協賛がもらえたりするといい
- ・ 行政とは、そこそこのお付き合いで地域が主導的にやっていくのがいい
- ・ 岸町コミセンでやっていたのはとても良い例になっている
- ・ 外国人へのケアなどは全国的にも珍しい取り組みだった
- ・ 次回あたりから具体的な中身にはいるかと思う
- ・ 大枠はおさえておきたい
- ・ 共通理念を定めたい。「人は関係の中で生きているので、自分以外の全ての人の安全、安心は私たちの喜びである。この学校は誰も排除せず、誰でも受容し、誰もが尊厳を保証される。」という考え方を提案したい
- ・ 半永久的に続くものになると良い

以上

浦和東部地区元気アップネットワーク

第3回 みんなの学校づくりプロジェクト

日時 4月22日（土） 10時～12時頃

場所 浦和スポーツクラブ

1. 開会・あいさつ
2. 自己紹介 . . . 必要に応じて
3. 第2回までのおさらい
4. 意見交換

みんなの学校について

誰が、何を、何のために、何時、何処で

5. 次回の予定
6. 閉会

配布資料

次第

資料—1 第2回の記録

過去の資料は。。。

ホームページ <https://genkiupnw.webu.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/genkiup.urawaeast/>



Facebook



ホームページ

第3回「みんなの学校」設立準備会

日時：2017年4月22日（土） 10時～12時

場所：浦和スポーツクラブ事務所

参加：佐藤、高梨、井上、高橋、西沢、森田、石井、深水、菊池、長島、小川、千野、
齊木、山田、野辺、小野崎



1. 開会
2. あいさつ
3. これまで出た意見の方向性

1) 目的

- ① 地域の人が暮らしやすくなるための実学や座学が良い
- ② 地域にこだわりたい
- ③ シニア大学との違いを出さないとわかりづらい

2) メニュー

- ① 講座の類・・・「教養」と「人材育成」の2種類の方向性が出ている
- ② サロン・・・居場所づくり的な意見も出ている
・食堂、若者、シニア、若い母親などがキーワードになっている
- ③ 参加の場・・・中高生や地域の人が参加する場にしたいという意見がある
- ④ まちなかギャラリーのような機能・・・空き家活用、子ども文庫など

3) 運営について

- ① 空いている場所を使っていくべき → うらわカフェ、ベンギンカフェ
お達者倶楽部、浦スポ

4) どんな学校になると良いか

① 人材活躍の場・人材育成

- (ア) お膳立てがあればできる人は少なくない
- (イ) ボランティア講座
- (ウ) 年代で分ける？
- (エ) 受講→修了→活躍の場の流れができると良い

② 地域に役立つ・こだわる

- (ア) 地域学
- (イ) 職能団体の退職者などに講師になってもらう

③ 講義内容について

- (ア) オープンなもの
- (イ) 地域に役立つもの

(ウ) 気軽なものも、専門性のあるものも

④ やり方

(ア) シリーズ化

(イ) 予定が決まっているのがいい

(ウ) 意義を最初に説明する

(エ) 修了証を出す

4. 各グループで出された意見

【A班】

○子ども

- ・子育てカフェ
- ・子ども食堂
- ・小中高生の悩み相談
- ・小中学校対象の遊び方教室
- ・子どもの遊び場づくり
- ・子ども文庫
- ・小学生の放課後の子どもたちと緩い遊びをしてみる
- ・高校生や大学生が主催する講座があってもいい

○多世代

- ・多世代カフェ
- ・ミニ世代
- ・婚活カフェ
- ・若者が集まる場所づくり
- ・学習会。新聞で話題の事柄について話をする
- ・本の紹介をする
- ・手作り教室
- ・いろいろな体操。貯筋体操、リンパ体操、ストレッチ・・・
- ・若いお母さん対象の子育て研修

○シニア

- ・会場のバリアフリーが必要。古い場所は使いづらい
- ・認知症カフェ
- ・シニア食堂
- ・身近で参加しやすい会合
- ・食堂、一人暮らしのシニアや子供たち対象
- ・ウォーキング教室

○全般

- ・傾聴の場、悩み相談
- ・花づくり
- ・街歩き



- ・歴史散歩
- ・里山歩き

【B班】

- ・地域に役立つきっかけに！
- ・講座を通じての仲間づくり
- ・受け身でない、ボランティアの養成ができないか
- ・シニア大学との差別化
- ・学びを活かす
- ・ニーズ調査をどこまでできるか？
- ・傾聴の実際を学ぶ講座
- ・歴史を学びつつ歩く講座も必要
- ・市の調査を活用し、やってもらいたいサービス要望に添って講座を計画したい
- ・高齢者調査、介護予防に関する市の調査の活用
- ・健康体操
- ・マンション管理
- ・ボランティア登録、社会福祉協議会以外でできないか。掘り起こしに
- ・終活
- ・食生活
- ・実学だけでなく座学もいれてほしい。考える材料を与えてほしい
- ・料理講座、特に地域の伝統的な食べ物を学ぶ
- ・介護
- ・健康、保健に関すること
- ・育児に関する
- ・マップづくり：資源の掘り起こし
- ・親子遊び
- ・太極拳
- ・ベビーマッサージ
- ・学習支援（小中高生）
- ・外国人サロン
- ・介護に関する講座
- ・筋トレ
- ・ハンドマッサージ
- ・家でできる簡単体操
- ・障がい者就労
- ・ヘルパー養成講座
- ・人の話を聴くことが援助になる理由を学ぶ授業
- ・社会福祉、特に地域福祉を学ぶ講座を入れてほしい
- ・文化、教養に関すること
- ・ウォーキング

- ・筋力アップ講座
- ・ものづくり
- ・認知症を学ぶ講座
- ・写真
- ・論語
- ・楽器演奏
- ・合唱
- ・水彩画
- ・英会話、英語でのコミュニケーション力アップ
- ・スマホの上手な活用法
- ・ますます元気教室、指導者研修の活用
- ・手話講座
- ・カラオケ
- ・パソコン、スマホ
- ・コミュニティカフェ
- ・観光ガイド
- ・認知症、オレンジカフェづくりのための講座
- ・地域の歴史、地理
- ・地域の昔話
- ・手芸
- ・携帯電話活用講座
- ・花木講座
- ・子ども食堂に立ち上げにすぐ役立つ講座
- ・この地方独特の言葉を集める講座もほしい
- ・地域の歴史を語る講座
- ・地域を創ることにつながるような講座



【F 班】

○サロン

- ・リビングウェル 人生を一緒に考える
- ・「いざ」という時を一緒に考える
- ・高齢者とのおしゃべり会
- ・認知症、介護する家族の集い
- ・誰かに会える、話せる、ほっとできる場
- ・うたごえ
- ・支援を求めている人に声かけをする
- ・不登校の子どもたちの居場所

○ボランティア養成講座

- ・一人暮らしの人に声かけをするシステムを考える

- ・新規ボランティア実践講座
- ・手話
- ・運動指導員養成講座
- ・障がい者への接し方を学ぶ
- ・傾聴講座
- ・認知症の人への支援
- ・ボランティア活動の受け皿づくり
- ・地域課題、解決講座



○健康

- ・健康を一緒に考える
- ・健康講座
- ・健康づくり講座

○教養

- ・相続、税金の勉強
- ・誰でもピアノ教室
- ・子どもと音楽を楽しむ
- ・手芸
- ・料理教室
- ・周辺の隠れた名所を知る、発見する。ウォーキングをする
- ・地域の歴史講座
- ・自分たちのまちを知る、見直す

○そのほか

- ・シニア対象の地域での起業講座

以上